

事業概況 自動車電装機器



2023年12月期実績

売上高 **1,400** 億円
販売数量 **10億3,200** 万個

主な用途

- **中型電装**
パワーウィンドウ、パワーシート、パーキングブレーキ、バルブ
- **小型電装**
ミラー、ドアロック、エアコンダンパー、ヘッドライト



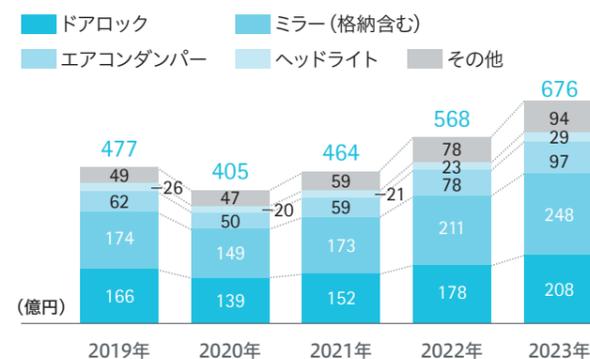
2023年12月期の主な取り組み

中型電装用モーター (パワーウィンドウ)	<ul style="list-style-type: none"> ・デトロイト3の3社目よりPW用モーターの受注獲得 ・日系5社目向けに販売を開始
中型電装用モーター (パワーウィンドウ以外)	<ul style="list-style-type: none"> ・日系大手顧客のグローバルモデル向けPS用モーターの販売を開始 ・EV向けバッテリー冷却水バルブ用モーターユニットの量産に向けた準備が進捗、韓国大手顧客より新規受注を獲得 ・シート・ベンチレーション・システム(SVS)用ブラシレス・ファン・モーターの量産に向けた準備が進捗
小型電装用モーター	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアクローザー、フラッシュ・ドア・ハンドル等のドア周辺の新用途で受注獲得 ・EV化等により新用途・市場が活性化、新製品・既存製品での対応が進捗

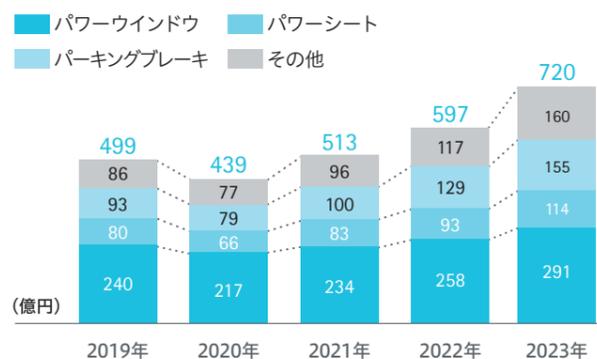
主要アイテム別売上推移 (2019年～2023年)

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う世界的な経済活動の低迷と、自動車市場全体の減速による影響を受け、売上は減少しました。2021年から2022年にかけてはサプライチェーンの混乱が継続した一方で、2023年は価格改定や円安の効果により売上が増加しました。小型電装用モーターの高いシェアは維持し、中型電装用モーターは採用車種拡大によりシェアを拡大しています。

小型電装用モーター



中型電装用モーター



2024年12月期の取り組み

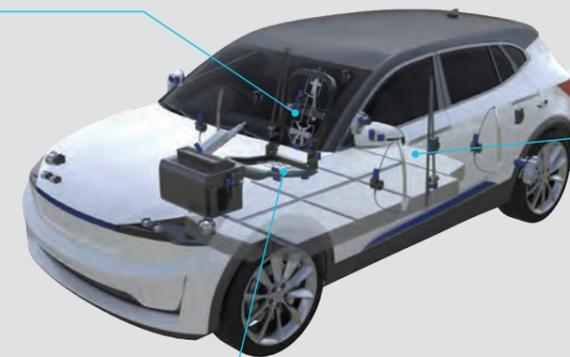
中型電装用モーター (パワーウィンドウ)	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米顧客向けの新規案件獲得 ・デトロイト3の3社目にPW用モーターを2025年に販売開始すべく量産準備を推進
中型電装用モーター (パワーウィンドウ以外)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規欧州大手顧客向けPS用モーターの販売開始 ・EV向けバッテリー冷却水バルブ用モーターユニットの販売開始 ・ユニット化、小型ブラシレスモーター及び制御技術を組み合わせ、技術変革期にあるEV向け新用途に対応
小型電装用モーター	<ul style="list-style-type: none"> ・既存製品のラインナップ拡大と新たな差別化技術を搭載した製品による高シェアの維持・拡大 ・EV充電ケーブルロックやフラッシュ・ドア・ハンドル等の新用途の受注拡大

電動化の流れで拡大する新用途とモーター搭載数増加への期待

自動車業界では電動化に伴って創出される新たな用途の検討が進められており、モーターとその周辺領域に高い専門性を有する当社に様々な引き合いをいただいています。長期的には、自動運転の実用化に向けた研究・開発が進められる中で、自動車が「動くリビングルーム」として、車内空間をより快適にするため、1台当たりに必要なモーターの数が増えていくと期待しています。

シート周辺

従来のビジネスに、日系大手内装メーカーや欧州シートメーカー向けの販売も加わることで、今後の安定的な成長を確度高く見込んでいます。シート周りでは新たな用途としてブラシレスモーターとファンを組み合わせたユニット製品であるSVSも販売開始に向け開発を推進しています。



ドア周辺

ドアの周辺ではドアクローザーやフラッシュ・ドア・ハンドル、またeラッチ等の新用途が生まれ、当社が中型・小型モーターの開発で培った技術力と製品ラインナップで新用途の受注を目指します。

バッテリー周辺

EVのバッテリー周辺においては、サーマルコントロールを目的とする新用途が生まれています。当社が従来から販売しているバルブ用モーターに加えて、2024年から統合型のバルブユニットの販売開始すべく開発を推進しています。

機会とリスク

機会

- 省エネルギーや静音化に貢献する小型で精密なモーターの需要増加
- 自動車のEV化による冷却水バルブ用途をはじめとする新規分野への参入機会が拡大
- 自動車の自動運転に伴う1台当たりのモーター搭載数の増加、及び乗員の快適性に貢献する新規分野の参入機会が拡大

リスク

- 原材料及び部材調達価格の高騰による収益構造への影響
- 半導体等の部品供給不足による影響
- 自動車生産の減速による影響

事業概況 ライフ・インダストリー機器



2023年12月期実績

売上高 **386** 億円

販売数量 **2億9,500** 万個



主な用途

- 家電・工具・住設
バキュームクリーナー、電気錠
- 事務機器
インクジェットプリンター、複写機・複合機
- 健康・医療
歯ブラシ、人工呼吸器、外科手術用ツール
- 理美容
ヘアドライヤー、シェーバー
- 移動体
AGV・AMR
- 協調ロボット

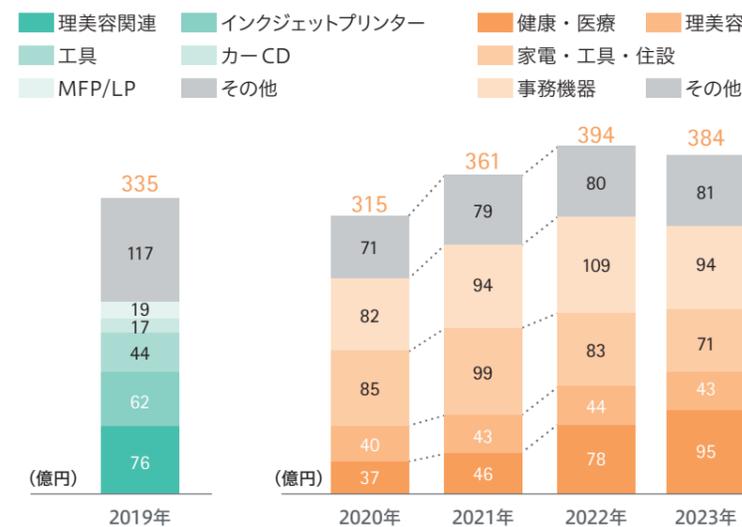


2023年12月期の主な取り組み

モビリティ	・アシスト自転車、シニアカー用で新規受注獲得
マシーナリー	・農機具用で新規受注獲得 ・商品陳列ロボット用で新規受注獲得 ・マブチエレクトロマグ製高付加価値モーターがガーデンツール用に販売開始
メディカル	・マブチオーケンが当社グループ入りし、技術交流、共同開発などのPMIが進展

主要アイテム別売上推移 (2019年～2023年)

2020年については新型コロナウイルス感染症拡大の影響も加わり、売上は減少しました。2021年はコロナ禍での巣ごもり需要が高まり、理美容関連や、中長期的には市場が縮小傾向にある事務機器の売上を中心に増加しました。健康・医療用は、中高級セグメントの歯ブラシの販売好調に加え、子会社化したマブチエレクトロマグの売上貢献もあり売上が大きく増加しました。2023年は価格改定や円安の効果もあった一方で、一部用途における巣ごもり需要の一服の影響がありました。



※2020年から主要用途の開示区分を変更しました。

※AGV：無人搬送車、AMR：自律移動ロボット、MFP：複写機・複合機、LP：レーザープリンター

2024年12月期の取り組み

- ・アシスト自転車用をはじめとする小型モビリティ用途における更なる販売拡大
- ・農機具等の電動化ニーズに対応

沖マイクロ技研の小型モーター事業の取得を決定 ラインナップを拡充し、産業用ロボット向けにトータルで製品を提供

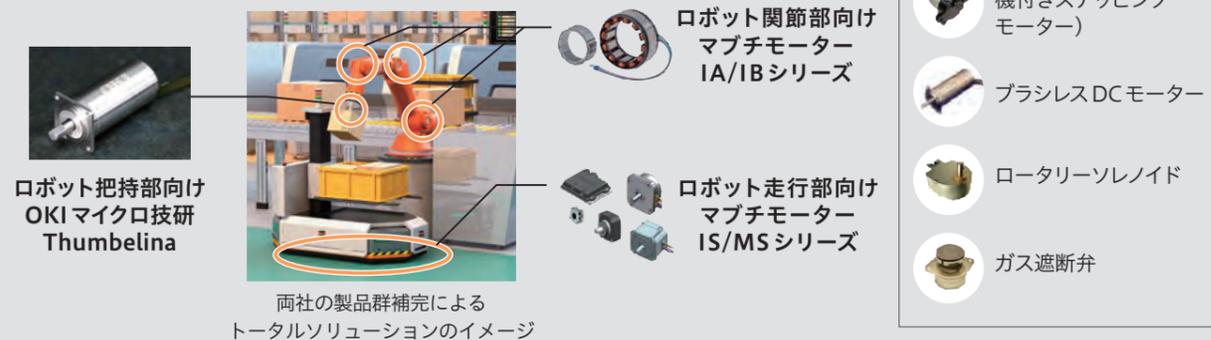
当社は2024年6月、沖電気工業株式会社（OKI）の子会社である沖マイクロ技研株式会社（OKIマイクロ技研）の小型モーター事業（海外子会社等一部を除く）を取得することとし、OKIと株式譲渡契約を締結しました。株式譲渡の完了は、2025年7月を予定しています。

本事業取得は、e-MOTOの事業コンセプトに基づきモーターの種類を拡充し、ソリューション対応力を強化することを目的としています。OKIマイクロ技研は、コア技術であるステッピングモーターをはじめ、ロータリーソレノイド等の当社がラインナップとして有しない各種モーター・アクチュエーター製品群を取り揃えています。近年は従来製品に加えて、新たな製品として小型、軽量、高トルク、低消費電力を実現する独自技術に基づくブラシレスモーター製品及び周辺ユニットの開発に取り組んでおり、今後の事業の柱となる製品として期待されています。

OKIマイクロ技研の有するステッピングモーターを中心とする技術及び製品ラインナップを、当社の技術、販売チャネル及び顧客基盤と組み合わせることによりシナジーを生み出し、製品開発と市場開拓の推進による新規事業の創出と既存事業の拡大を図ってまいります。

期待するシナジー

1. 両社の製品技術融合によるモーター開発の革新、効率化
2. 当社の販売体制・顧客基盤を活用したOKIマイクロ技研既存事業の海外市場への拡販
3. 当社の大量生産ノウハウを活かした、OKIマイクロ技研製品のコスト競争力強化



機会とリスク

機会

- CO₂排出量削減のため産業設備における電動式への切り替えが加速していることによる需要増加
- 移動体、産業機器、医療などの主要分野における更なる小型・軽量・高効率化への需要増加
- 人手不足の解消に貢献するロボット用途での需要増加

リスク

- 原材料及び部材調達価格の高騰による収益構造への影響
- 中国における低コストな競合メーカーの台頭
- 半導体等の部品供給不足による影響